

自然観察 NOW

NO. 90

野幌森林公園 自然情報

発行：2025年9月6日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



◆ 初めてのシダ観察 ～ 野幌森林公園で出会えるシダ植物

☆ シダってなに？

シダは花や種を作らず「孢子(ほうし)」で増える植物です。

苔(こけ)と違って、根・茎・葉の構造があり、背丈が高くなる種類もあり、特にレース状に分かれた葉が特徴的です。

環境の指標にもなっていて、乾燥や大気汚染に弱い種類もあり生育状況を見ることで森の環境や水分状態を知る手掛かりにもなっています。

歴史的には恐竜の時代から存在するととても古い植物です。

身近なものでは「ワラビ」「ゼンマイ」「ツクシ(スギナの孢子茎)」「コゴミ」、観葉植物では「アジアンタム」人気の「ビカクシダ」などがあります。

☆ 観察するコツ

- ・踏まないように注意！
足元のシダはデリケート。見つけたらそっと観察しましょう。
- ・ルーペを使って見よう！
孢子をつくる「孢子嚢(ほうしのう)」を見るとシダの世界がもっと面白くなります。
特に、秋は孢子が完成するので観察にオススメです。
- ・図鑑を使うのも便利
シダは種類が多いので図鑑やアプリを使うのも楽しくなる一つです。
ポイントがよくわかります。

☆ 森の中でそっとシダに出会う時間

シダには派手さはありませんけど、よく見ると一つひとつに個性があり静かに森に彩りを添えています。

野幌森林公園には50種類以上のシダがいます。ぜひシダとの出会いを楽しんで下さい。

☆ 探してみよう!!



ジュウモンジシダ

・ ジュウモンジシダ「十文字羊歯」

葉の上部の長い部分が十字形をしているから、十文字シダ
3枚の葉でとても分かりやすく、しばしば群生し、その形は
まるで手をつないだ踊り子のよう。
新芽のおひたしは結構美味... という情報もあります。

・ ミゾシダ「溝羊歯」

園路わきに多く群生し、今回のコースで一番目にすると思われるシダ。
野山の湿ったところ、林下などに普通にみられる。
全体が細かい毛で被われ葉裏の線状の胞子は葉脈に沿って付くのが特徴。

・ エゾフユノハナワラビ「蝦夷冬の花蕨」

春の終わりに枯れて7月に芽生え、これから胞子を成熟させて秋に飛ばす。今の時期は準備中。
似た形で初夏のころに胞子を飛ばすのは「ナツノハナワラビ」

・ オシダ「雄羊歯」

オシダ…「雄シダ」ともいわれる名前の通り雄大な姿で野幌森林公園内でもたくさん見かけ
ます。葉の長さは1メートル前後で葉の裏の上半分位に丸い胞子をつけます。
わかりやすいので、のぞいてみてください。今の時期の特典です！

・ オシャグジデンド「御社貢寺連朶」

木の幹に付く着生シダの一種、7月に枯れて8月に新芽を出すので、今!“新緑”に出会え
ます。
乾燥すると丸まってしまうので標本を作る時に難儀します。
名前は発見地の長野県木曾地方の社貢寺に由来し、「おしゃぐじ様」と言って信仰になってい
たとされる文献があるそうです。



ミゾシダ



エゾフユノハナワラビ



オシダ



オシャグジデンド (苔生した幹に)

【参考文献】・「北海道のシダ入門図鑑」梅沢 俊著 (北海道大学出版会 2015. 7. 10 第1刷発行)

文責：吉田京子

◆今後の観察会の予定

・自然ふれあい交流館とボラレンの共催/要 事前申込み ☎011-386-5832

10月2日(木) 9:50-12:30 「秋の森の観察会」野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合

・ボラレン主催/直接会場へ 参加費@200- (大人)

10月18日(土) 10:00-12:30 「晩秋の森観察会」野幌森林公園 大沢口入口前広場集合